

皆様、春季大祭、そして、豊穰祈願祭おめでとうございます。

誠に畏れ多いことではありますが、創造主であられる唯一の神・主神のみ心は、全人類をご自身の子とするということでもあります。

そのために、私どもは、創造の始まりの天国において、あらかじめ“明主様とご一緒に、主神の永遠の命の息を賜っていたのであります。

明主様は、主神の子たるメシアとして新しくお生まれになり、私どもの模範となりました。

本日のみまつりを迎えて、私は、私ども一人ひとりが、全人類とその父母先祖の方々と共にあるものとして、また、万物と共にあるものとして、新しく生まれるために養い育てられていることに感謝申し上げ、明主様と共におられる主神をお讃え申し上げたいと思います。

先程は、皆様を代表して発表していただきました〇〇さんの感謝奉告を通して、皆様が常日頃、信仰の学びと実践に地道に励んでおられるご様子的一端に触れさせていただき、皆様のひたむきなご努力に頭の下がる思いであります。

続いて成井理事長より、新年度に向かつての決意あふれる、力強いご挨拶をいただき、大変ありがたく思っております。

私は、皆様が今、明主様を通して培われている「神中心の信仰」は、この世での善し悪しや幸不幸を判断する人間の尺度に基づいた信仰ではなく、神様のみ心、すなわち、私どもを新しく生まれさせるというみ心にお応えするための、全く新しい信仰であると思います。

その意味で、現在、「想念の革正」や「真善美配布を力とする会う・聞く・浄霊」、そして、「聖地建設」に取り組んでおられる皆様が、明主様が成し遂げられた全く新しい信仰の養いの中で、一段と進化し、成長されますようお願いしております。

さて、私どもは誰しも幸福を求め、その幸福が少しでも長く続くことを願っております。

明主様は、私どもがそうした幸福を獲得することができるようにと、数々のみ教えをお説きになっておられます。

特に強調しておられますことは、人を幸福にしなければ、自分は幸福にな

り得ないという利他の精神であります。

明主様がこうした利他の精神をお説きになっておられるのは、すべての人々の幸福を分け隔てなく願うことのできる、大きな愛をお持ちの方は主神であることを、私どもに気づかせ、その主神をお讃えすることができるものに、私どもを育てようとしておられるからであります。

私ども人間は、心身共に健康に恵まれ、家族を始めとする様々な人間関係がうまくいき、教団としての取り組みや日々の仕事なども順調に進むことを願い、また、自分だけではなく、多くの人々もそうあってほしいと望んでおります。

私は、私どもがお互いの健康を始め、幸福な生活を願うことを、否定的に捉えているのではありません。

私どもが幸福になることを、明主様は心から喜んでおられると思います。

ここで私が申し上げたいことは、私どもに幸福になることを願わせてくださっている、私どもにとって最も大切な存在である主神に、そして、その主神の思いに、少しでも心に向けることを、私どもは忘れないようにしたいということであります。

主神が私どもを愛してくださっている、その愛は、私どもを主神ご自身の子とされたいという思いに満ち溢れております。誠に畏れ多いことでもあります。

この愛に応えることができるようにと、主神が私ども人間のために用意してくださったのが信仰である、と私は思います。

この信仰について、明主様は、「信仰の究極の目的は、完全なる人間を作ることであるとも思う」と述べておられます。

このみ教えを通して明主様がお示しになっていることは、人間というものは、主神が「完全なる人間を作る」ためにご自身の創造のみ業を成し遂げておられることを信じ、従わなければならない、と私は受けとめております。

主神は、私どもが、み教えの学びとともに、浄霊を始め、感謝や利他愛など、数々の実践に努めながら、日々人間性の向上をめざすことを許して下さっております。

しかしながら、私どもは、どんなに人間性が素晴らしくても、自分のなす業<sup>わざ</sup>をどこまでも人間の業としている限り、いつまで経っても完全なるものには成り得ないのではないのでしょうか。

なぜならば、完全さを持っておられるのは、主神お一方<sup>ひとかた</sup>であり、その主神の業こそ完全であるからであります。

そして、主神は、私どもを大いなる赦しの中に置かれ、私どものなす業す

べてを主神ご自身の業として掌握し、治めておられます。

ですから、私どもは、自分のなす業すべてを人間の業として誇っていたことを認めるとともに、たとえ自分が未熟で至らないものであっても、すべてを主神に委ねさせていただくならば、主神は大いなる赦しをもって、私どもを“主神の業に仕えたもの、と見なしてくださって、主神の完全さの中に迎え入れてくださるのではないのでしょうか。

そして、このようにして、不完全な私ども人間が、自らのうちにおられる完全な存在、すなわち、明主様と共におられる主神のみもとに立ち返って、主神とひとつにならせていただき、主神の子にならせていただくことが、主神の「完全なる人間を作る」という目的に合致することになるのではないのでしょうか。

明主様は、「人間は神様の子」とお述べになりました。

このお言葉を、私どもは軽々しく受けとめるべきではないと思います。

私どもが神様の子ということは、神様は、私どもの中に、ご自身の命と意識と魂を宿しておられるということでもあります。

私ども人間は、肉体の両親から受け継いだ、この世限りの命だけではなく、神様の永遠の命という大きな恵みを賜っているのです。

にも拘らず、私どもは、私どもの中に宿る神様ご自身の命を、私ども人間のものとし、私どものもののようにして使っていることすら気づいておりませんでした。

それでは、私どもは、明主様の仰るような「神様の子」とは言えないのではないのでしょうか。

私どもは、神様の命と意識と魂を自分のものとしていた無知や過ちを認めて、悔い改め、神様の赦しを素直にお受けする必要があると思います。

そうすれば、神様は、私どもをみ前に立ち返ったものとして迎え入れてくださり、私どもに、もう一度改めて、ご自身の永遠の命を授けてくださるに違いありません。

そして、私どもを本当の意味で、明主様の仰る「神様の子」、すなわち、<sup>まこと</sup>真の主神の子として新しく生まれさせてくださる、と私は信じております。

このことを私どもの模範として成し遂げてくださったのは明主様であり、その明主様が私どもの意識の中心におられるのであります。

そして、私どもは、明主様のからだであり、手足であるからこそ、一人ひとり明主様とひとつに結ばれている、と申せるのであります。

主神は、私どもを明主様とひとつに結んでくださって、私どもの意識の中心において、新しく生まれさせる、すなわち、「完全なる人間を作る」という信仰の目的を、すでに成し遂げてくださいました。

だからこそ、私どもは、み教えにありますように、「完全に一步一步近づかんとする修養」に努力することが許されているのではないのでしょうか。

ですから、私どもは、新しく生まれるという境地に到達できるかどうかと  
思い巡らすよりも、主神は、明主様に結ばれた私どもの意識の中心において、私どもをご自身の子として新しく生まれさせるという目的を成し遂げてくださったことを認め、そして、認めさせていただいたことを、明主様と共に  
おられる主神にご奉告申し上げることが、最も大切であると思います。

本日の春季大祭においては、豊穰祈願のみまつりも併せて執り行われ、皆様から寄せられた数々の作物の種がご神前に供えられております。

種ということで申せば、私ども自身が、主神の命と意識と魂という大切な種を賜っているのではないのでしょうか。

その種が主神の子という良き実を結ぶことができるように、耕し、育ててくださるのは、私どもの本当の親である主神と明主様であります。

私どもは、作物の種がご神前に供えられているように、自分自身が自らの意識の中心に存在する天国に立ち返って、主神に捧げられた供物とならせていただき、その天国での養いをお受けしながら、主神に喜ばれる子という実を結ばせていただきたいものであります。

終わりに、私ども一同、燦々と輝く春の光に照らされて、肉体の死に囚われていた長い眠りから目覚め、明主様に結ばれて、永遠の命を知るという救いを賜ったことを、主神に心より感謝申し上げ、全人類とその父母先祖の方々と共に、そして、万物と共に、主神の新しい命の息吹を胸いっぱい吸わせていただき、その命の息吹をもって、すべてをいきいきと甦らせるみ業にお仕えさせていただきましょう。

ありがとうございました。

以上